

軌道コースからの眺めが素晴らしいレールマウンテンバイク



授賞式の様子

JTBは1月23日、「第9回JTB交流文化賞」受賞作品を発表した＝関連記事3面。組織・団体を対象とした最優秀賞にはNPO法人 神岡・町づくりネットワーク「線路よ響け!!いつまでもレールマウンテンバイク『Gattan Go!!』」を決定。優秀賞には八女文化遺産保存・活用ネットワーク「八女の町家で暮らそっか?一町並みの輝きを再び取り戻す人々の挑戦」と、NPO法人 尾道空き家再生プロジェクト「負の遺産を町の宝に!『尾道空き家再生プロジェクト』」を選んだ。人や文化との交流による地域活性化の事例として高く評価された三つの取り組みを紹介する。

廃線の軌道を観光資源に

昭和30年代に神岡鉱山の企業城下町として栄えていた神岡は、鉱山の枯渇や鉱山の合理化から過疎化が進行。神岡鉱山の労働者と地元住民の生活を支え続けた神岡鉄道も2006年に廃線となった。このレールを残したい、そして、町を元気にしたいという想いから考案されたのが「レールマウンテンバイク」だった。レールマウンテンバイクは、鉄道のレール幅に合わせた特製フレームで固定された2台のマウンテンバイクで前進する乗



枕木交換会

線路よ響け!!いつまでもレールマウンテンバイク「Gattan Go!!」

NPO法人 神岡・町づくりネットワーク

(岐阜県飛騨市)

受賞の喜び



神岡・町づくりネットワーク理事長 鈴木進悟さん

1、2年先には運営距離の延伸を

これまでやってきた7年間のうち、最初の4年間、市から線路を借りるために飛騨市観光協会が事務局を引き受けてくれた。奥飛騨温泉郷など周辺の観光地の皆さんにはお客さまへのPRなど応援してもらった。それをお礼を言いたい。今運営している距離は2・9キロしかなく、お客さまの予約をキャンセルしている状況が続いている。我々としても正しい、いたいた賞金を活用しながら、1、2年先には延伸もしていきたい。

馬車軌道から始まった神岡鉄道は、06年の廃線まで飛騨神岡地域の歴史そのものであった。地域の人々にとっては廃線を交通近代化の結果とあきらめるわけにいかず、地域の歴史である軌道を守ることにこだわった。地元有志のアイデアと熱い思い、地元企業のモノづくりの精神がレールマウンテンバイクを生み出した。シンプルながら軌道そのものを体感し楽しめる観光資源に転換したことが素晴らしい。そして、モノづくりへのこだわりから、さまざまなタイプのバイクを生み出し続け、山間から楽しさのこたえが伝わる取り組みである。

◆評価のポイント◆

当初はイベント的な運行だったが、周辺の宿泊施設関係者からの熱い要望もあり、毎年、営業日数を増加。12年の利用客数は2万人を超えた。飛騨地域の新しい着地・体験型観光スポットとして認知され、以前は閑散とした過疎の田舎町が一躍脚光を浴びることになった。地元内外の神岡鉄道ファンに風雪を傷んだ枕木を手作業で交換してもらう「枕木交換会」も開催している。

交流による地域活性の優れた取り組みを表彰

第9回JTB交流文化賞受賞作品 決まる

町並みと地域の心を保存

八女市の中心街地・福島では、1991年の大型台風によりかつて被害を受けた伝統的町家が取り壊されて以降、市民活動により町並み保存の仕組みが整えられてきたが、少子高齢化や人口減少により町並みの中に空き家が目立つようになってきた。「八女文化遺産保存・活用ネットワーク」では、空き家のあつせん、歴史的建築物の保存再生などにより、町並みに賑わいを取り戻そうと活動



八女福島、東宮野町の通り

八女の町家で暮らそっか?一町並みの輝きを再び取り戻す人々の挑戦

八女文化遺産保存・活用ネットワーク

(福岡県八女市)

優秀賞

八女福島のそのまの暮らしを体験してほしいと取り組んで、後から観光が付いてきた状況だから、受賞するとは思っていなかった。この受賞によって、歴史や文化を守り、育てていくという住民の気持ちがさらに高まってくれようという。2月公開の映画も多くの人に観てもらえるのではと期待している。我々の活動とJTBの戦略がマッチして今後JTBの商品として取り上げてもらえればありがたい。

受賞の喜び



八女町家再生応援団代表 北島力さん

住民の気持ちさらなる高まり期待

◆評価のポイント◆

かつて福島城の城下町であり、交通の要衝として、商業の中心地として発展し、重厚な商家が軒を連ねてきたが、近代化で取り壊しの流れに。その動きに対し20年近く前から町並みの保存運動が始まり、保存だけでなく、新たな活用に向けた取り組みに実績を積み重ねてきた。形の保存だけでなく映画「まちや紳士録」を自主制作し、地域の心意気を保存し伝えようとする素晴らしい活動だ。

受賞地域を全力でバックアップ

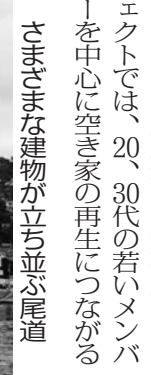
まずは、受賞された皆様にお祝い申し上げます。JTBグループは、地域の方々とともに地域が本来持ち合わせている魅力を存分に生かした持続的な「交流」の創造、活性化へ寄与していきたいと考えています。2005年にこの理念のもとに「JTB交流文化賞」を創設し、9回目を迎えることができました。今回も素晴らしい作品が数多く集まり、交流文化賞(組織・団体対象)では過去最高の110作品ものご応募をいただきました。受賞された取り組みは、現時点でもその地域ならではの魅力を生かした素晴らしい取り組みですが、まだ伸びしろがある、発展性が期待できる取り組みです。さらに輝くために当社としては全力を挙げてバックアップしていきます。受賞地域の「これから」に、ぜひご期待ください。



JTB社長 田川博己氏

若者中心に「良さ」を磨く

日本の原風景的なイメージのある尾道が、ハイカラな洋館付き住宅や旅館建築、杜宅などさまざまな時代の建物が建ち並ぶ南側の斜面地など住宅密集地での空き家問題を抱えている。その多くは長年の放置により廃屋化しており、現存する空き家をいかに上手く活用し、後世に伝えるかが最重要課題となっている。NPO法人尾道空き家再生プロジェクトでは、20、30代の若いメンバーを中心に空き家の再生につながるさまざまな建物が立ち並ぶ尾道



尾道市街地

受賞の喜び



尾道空き家再生プロジェクト代表 豊田雅子さん

観光で交流人口を増やしたい

負の遺産を町の宝に!「尾道空き家再生プロジェクト」

NPO法人 尾道空き家再生プロジェクト

(広島県尾道市)

優秀賞

受賞は光栄。これまで町づくりのために活動してきた、観光の取り組みは最近のこと。昨年、ゲストハウスをオープンしたので、そこから交流人口をどんどん増やしていきたい。尾道は坂や路地など昔ながらの町並みや地形を生かして取り組んできた。特に西日本には、独特の地域資源を生かして活動している小さくて個性豊かな町が尾道のほかにまだたくさんある。JTBにはそうした町にもぜひ光を当てほしい。



「花嫁のれん展」で行われる花嫁道中

第8回最優秀賞 受賞作品 昨秋、JTB商品に

また記憶に新しい昨年の「第8回交流文化賞」では、一本杉町会(石川県七尾市)の「花嫁のれん展」(七尾「一本杉通り」の部)と、その花嫁のれんが、受賞から1年を待たずに昨年11月14日、団体向け企画商品「地恵のたび 七尾」として発売された。

トピックス

花嫁のれんは、幕末から明治にかけて加賀藩の領地であった加賀・能登・越中での庶民の風習。花嫁は実家の紋が入ったのれんを嫁ぎ先の仏間の入り口にかけておくき、結婚式の朝にへり、先祖の仏前にお参りする。一本杉町では2004年から「花嫁のれん展」をスタート。大きな反響を呼び「のれんのまち」として多くの人々で賑わうようになった。知恵と工夫でまちおこしに取り組む地域を訪れる「地恵のたび」では、一本杉町で、花嫁を護り続けた美しい花嫁のれんを見学する「花嫁のれん展」で好評な語りを聞く。交流文化賞は、受賞で終わるのではなく、JTBが地域地域の取り組みを応援していく。今後もJTBでは、受賞地域に対して、商品化やイベント開催、受け入れ基盤整備、人材育成などの地域活性化プランを提案し、地域の交流人口の拡大に努めていく予定だ。

JTBは、地域・文化・人との新しい出会い、「交流文化」を支援・推進します。

JTB交流文化賞

JTB交流文化賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設され、毎年開催しています。自分の暮らす「まち」の魅力や取り組みを伝える「交流文化賞」を通じて、地域・文化そして人との新しい出会いを応援しています。また受賞地域を様々なかたちでバックアップいたします。

第9回「交流文化賞」には過去最高の110作品ものご応募をいただきました。どうもありがとうございました。

観光交流による地域活性化の取り組みが全国各地で進んでいることを実感いたしました。

次回、「JTB交流文化賞」は第10回を迎えます。2014年初夏に募集開始予定です。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先

JTB交流文化賞事務局

(株式会社JTB総合研究所内)

tel.03(3525)4559(10:00~17:30 土・日・祝日休み)

fax.03(3525)4565

e-mail: jtb-kbunkasho@tourism.jp

www.jtb.co.jp/chiikikoryu/

JTB交流文化賞

検索